

アイリッシュ WHISKEYの会 復活し再評価される穏やかな味わい



アイルランド共和国および英国領北アイルランドで生産されるウイスキー。スコットランドと並んでウイスキーの発祥地とも目されます。ウイスキーの綴りに“E”を挿入し、スコッチと差別化しています。滑らかで穏やか、独特のオイリーなフレーバーで、かつては世界最大の生産量を誇っていた。現在、復興した4か所の蒸留所で様々なブランドが復刻されています。

アイリッシュ・ウイスキー お好きなだけ
会費:2500円 (おつまみ付き・飲み方は自由)

9月21日(金)、22日(土)、28(金)、29(土) 他の日も応相談
17:00 - 20:00 事前連絡要 於:Café & Bar 朝堂院



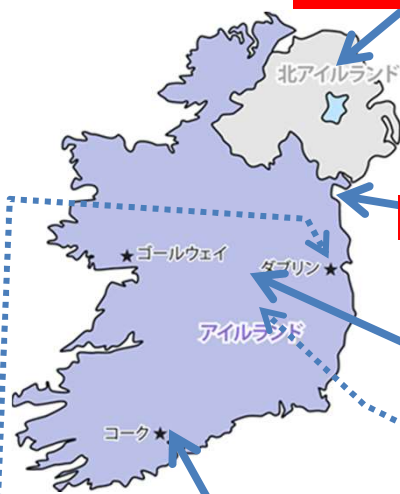
ブッシュミルズ蒸留所



BUSHMILLS BLACKBUSH (40%)
1608年の創業と言われる最古の蒸留所の看板ブランド。伝統の3回蒸留を行ったスコッチタイプの100%モルトウイスキーを用いたブレンディッド。甘みとスパイシーさがあり、ロック、ソーダ割などなんでもOK。



アイルランド王国は1801年に英国に併合される。1922年に独立し、英国の自治領となり、さらに1931年に主権国家として英国連邦に入る。1949年に英国連邦から脱退し完全に独立した「アイルランド共和国」が成立した。1998年に北アイルランドの領有主張を断念した。



クーリー蒸留所



Connemara ORIGINAL (40%)
アイリッシュで唯一、ピートを焚いたウイスキー。名前の由来であるカネマラ地方はピートの産地であった。アイリッシュらしい爽やかなスパイシーさ、甘みにスモーキーさが加わったシングルモルトの一品。ストレートはもちろんだが、濃い目のソーダ割がおいしい。

キルベガン蒸留所



KILBEGGAN(40%)
1757年創業の蒸留所。記録に信憑性がある中では最古。造りはスコッチタイプ。スペイサイド地方のスコッチのような優美な味わいになっている。ストレートで楽しみたいブレンディッドウイスキー。

新ミドルトン蒸留所

1966年にアイリッシュ・ディスティラーズ・カンパニーが設立され、コーク市のミドルトン蒸留所に工場を統合した。1975年に新蒸留所が完成し全生産を統合した。



JAMESON (40%)
ラベルの紋章はジェイムソン家の祖先が海賊を討伐し、スコットランド王から授かったもの。もともとはダブリン(アイルランド共和国の首都)で製造されていた。最も売れているアイリッシュブレンディッド。ジンジャエール割もいける。



PADDY (40%)
もともとのミドルトン蒸留所のフラグシップだったブレンディッド。もともとの名前は「オールド・アイリッシュ・ウイスキー」だったが、カリスマ営業の個人名が呼び名になり、やがて正式名称になった。スムーズで甘みもある。ソーダやジンジャエール割もいける。



TULLAMORE DEW (40%)
もともとの蒸留所はダブリンの西80kmの「タラモア」にあった。米国禁酒法以来衰退し、現在は新ミドルトンで復刻されている。DEWとは「露」を意味する。フローラルでナッツやビスケットの風味。万人受けする。少量の水や水と一緒に楽しめる。



REDBREAST 12 (40%)
もともとはダブリンで製造されていた。アイリッシュの特徴的なシングルポットスタイル(モルトとその他の穀物を一緒に発酵・蒸留する)製法で作られる。特徴であるオイリーさが表れた一品。ストレートで。